

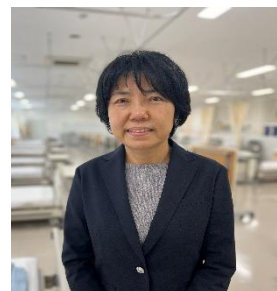
ニュースレター

2025年7月

日本看護研究学会
九州・沖縄地方会事務局
熊本保健科学大学保健科学部
井上 加奈子 吉野 拓末
〒861-5598
熊本市北区和泉町325
電話：(096)275-2111 (代表)

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会会長 荒尾博美



九州・沖縄地方会会長の荒尾です。前会長より業務を引き継いで1年が経過し、2度目のご挨拶になります。会員の皆様におかれましては、健やかに過ごしのことと存じます。私が原稿を書いておりますのは梅雨の中ごろですが、皆様がこの文章を読んでいただくときには、きっと青空に気持ちよく雲が浮かぶ夏の空が広がっている時期になっていることと思います。

まず、第29回九州・沖縄地方会学術集会についてご報告いたします。「多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す」をメインテーマに、令和7年3月9日（日）に宮崎大学で開催されました。「多職種連携」「QOL」に関する講演・シンポジウムが開催され、とても充実したプログラムでした。また、現地開催ではありましたが、シンポジストがオンラインで参加し、これからの新しい学術集会のかたちを示していただけた学術集会であったと思います。第29回学術集会が盛会のうちに終了し、とても嬉しく思います。木下由美子学術集会長をはじめ、企画および実行委員の方々に心から御礼申し上げます。木下由美子先生からのご報告、また、参加された会員からのメッセージも掲載しておりますので、学術集会の詳細はそちらでご確認ください。

続いて、第30回九州・沖縄地方会学術集会についてお知らせいたします。第30回九州・沖縄地方会学術集会は、「研究シーズの発掘から臨床への実装を目指して」をメインテーマに、九州大学馬出キャンパスで開催予定です。今年度の学術集会は、九州大学の橋口暢子先生に学術集会長をご担当いただき、準備を進めていただいております。多くの会員の皆様にぜひともご参加いただけますよう、お願い申し上げます。第30回学術集会の詳細につきましては、「第30回九州・沖縄地方会学術集会ご案内」をご覧ください。この秋に福岡で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

現在、大阪で開催中の万国博覧会のコンセプトは、“People’s Living Lab”（未来社会の実験場）で、最先端の技術やシステムなどを世界に発信する場として注目されています。万博と同じく九州・沖縄地方会も、看護に関する新たな知見を生み出す機会を作り、発信する場としての活動をこれからも継続して参ります。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご発展とご健康をお祈りいたします。今年度も日本看護研究学会九州・沖縄地方会の活動にお力添えをよろしくお願い申し上げます。

*** 事務局より ***

◆ニュースレターは紙媒体を廃止しています。

ホームページにアクセスし、いつでもニュースレターをご覧ください。

会員からのメッセージ

宮崎大学大学院 看護学研究科 実践看護者育成コース（がん看護） 川野 理沙
宮崎大学医学部附属病院 がん化学療法看護認定看護師

2025年3月9日に開催された日本看護研究学会第29回九州・沖縄地方会学術集会に、一般演題発表者（示説）およびシンポジウムの座長として参加させていただきました。

私は、がん化学療法看護認定看護師として勤務する中で、がんに対する偏見や誤解が患者やその家族に苦しみを与えている現状を目の当たりにした経験から、正しいがん理解の促進が必要と感じてきました。現在はその思いをもとに、大学院で「がん教育」をテーマとした研究に取り組んでいます。

今回の学会では、看護専門学校生を対象としたヘルスリテラシーに関する実態調査をポスター形式で発表しました。教育現場や臨床現場で活躍されている方々から多くの意見をいただく中で、研究の意義や課題について新たな視点を得ることができました。参加者が私の研究に関心を寄せ、討議が行われたことはポスター発表ならではの醍醐味であり、「伝わる」「対話になる」経験が大きな励みとなりました。

シンポジウムでは「対象者・家族のQOL向上を目指す多職種連携」というテーマのもと、他職種の登壇者と共に登壇し、初めて座長を務めました。緊張感もありましたが、温かい雰囲気を支えられ、自分らしく進行することができました。参加者が登壇者の講演を真剣に聴き入っている様子が伝わり、それぞれ立場は異なっても、共通の関心事を持つ仲間がいることを実感し、心強く感じました。終了後には「とても良い講演だった」「勉強になった」と声をかけていただき、座長として嬉しく思うと同時に、自信にもつながりました。

今回の経験を通して、自身の研究や実践をより深めていきたいという思いが一層強くなりました。今後も積極的に学会へ参加し、学びを重ねてまいりたいと思います。最後に、今回たくさんのお力添えをいただいた学術集会長 木下由美子先生をはじめ、宮崎大学医学部看護学科 総合臨床看護学講座の先生方に心より感謝申し上げます。

福岡看護大学 地域・在宅看護部門 在宅看護分野 山中 富

2025年3月9日に宮崎大学にて開催された第29回九州・沖縄地方会学術集会において、初めての口頭発表を経験させていただきました。このような機会をいただき、学術集会長をはじめ、学術集会の運営に携われた皆様に感謝申し上げます。

発表のテーマは「ライフヒストリーインタビューを取り入れた看護学実習における学修効果」でした。本研究は、本学が3年次に開講している「高齢者生活支援看護実習」において実施しているライフヒストリーインタビューを経験した学生の学修効果を明らかにすることを目的としておりました。

結果としては、87.5%の学生が高齢者の人生背景と価値観や健康観の個別性を学べたと答えており、高齢者と交流が少ない環境で育った看護学生が介護施設で生活する高齢者の生活体験をお聞きすることの効果が明らかとなりました。また、高齢者にとっても自己を振り返る統合の機会となっていると考えます。

これからも、『介護保険施設を含めた在宅の場で生活を送る高齢者および家族の最適な生活(well-being)を目指す看護実践方法を学ぶ』ことを目的にしたこの実習を充実させていきたいと考えています。

今回の学術集会テーマである『多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す』は、地域在宅看護を教授する私にとって非常に重要な看護の視点です。今回は、以前、私も勤務していたホームホスピスの活動について市原美穂先生のご講演をお聞きして、地域での多職種連携と看護の役割を再認識いたしました。また、会長講演における木下由美子先生の「がん患者のQOL研究」や、特別講演における鈴嶋よしみ先生の「QOL評価の理論と実際」をはじめ、大変貴重なご発表を拝聴することができ、これからの教育・研究活動に資する経験となりました。

これからも、今回の学びを活かし、教育および研究活動においてチャレンジを続けていきたいと思っています。

一般社団法人 日本看護研究学会 第29回九州・沖縄地方会学術集会を終えて

学術集会長 木下 由美子（宮崎大学医学部看護学科）

2025年3月9日（日）、第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会を、宮崎大学医学部（清武キャンパス）にて開催いたしました。参加登録者163名、当日参加者146名と、多くの皆様にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。大会長として、心より御礼申し上げます。

本大会では、「多職種連携により対象者・家族のQOL向上を目指す」をテーマに掲げ、臨床・教育・研究の多角的な視点から、最新の実践と成果が共有されました。基調講演、シンポジウム、口演・ポスター発表といった各セッションを通じて、専門職同士の活発な対話が交わされ、学術的にも実践的にも意義深い時間となりました。若手の発表も多く、大学院生がシンポジウムの座長を務める機会もありました。若手人材の挑戦と成長が随所に感じられる集会となり、学生たちにとっても、研究活動の意義や看護実践の重要性を体感する貴重な学びの場となったことと確信しております。

当日は晴天にも恵まれ、会場内外には和やかな雰囲気広がりと、参加者同士の積極的な意見交換が行われました。帰路のバスの中では、「内容が充実して面白く、勉強になった」といった声が多く聞かれたと伺い、参加者の皆様の満足度の高さを改めて実感し、大変嬉しく思っております。

また、本学会にご寄付を賜った本学名誉教授・東先生からは、「晴天に恵まれ、多くの参加者の皆様にアカデミックな内容から身近な話題に至るまで、素晴らしい講演や演題発表が提供されたと思います。企画運営に当たられた委員の皆様の叡知とチームワークが結集された学術集会でした。看護学の発展に向けて、今後ともご尽力ただけますようお願い申し上げます」との温かい言葉を頂戴し、運営一同、深く感激いたしました。

さらに、お弁当やお菓子、飲み物などもご好評をいただき、企画側からのお礼の気持ちが参加者の皆様に伝わったことを、大変嬉しく感じております。今後とも、日本看護研究学会九州・沖縄地方会のさらなるご発展を、心よりお祈り申し上げます。



第30回九州・沖縄地方会学術集会ご案内

『研究シーズの発掘から臨床への実装を目指して』

学術集会長 橋口暢子

(九州大学大学院医学研究院保健学部門)

このたび、日本看護研究学会第30回九州・沖縄地方会学術集会を2025年11月1日(土)に、九州大学で現地開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

本会のテーマは『研究シーズの発掘から臨床への実装を目指して』としました。

特別講演には、九州大学病院 国際医療部の工藤孔梨子先生をお迎えし、「デザイン思考による医療・看護における課題解決と実装」をテーマにご講演いただきます。工藤先生は現在、芸術工学研究院と連携し、医療現場における課題解決型教育プログラムの開発・実証を目的とした「医療×デザインプロジェクト」を推進されておられます。医療安全、医療従事者の働き方改革、患者QOLの向上など多岐にわたる課題に対し、デザイン思考を活用して取り組まれている先進的なご活動は、参加者の皆様にとって新たな視点を得る貴重な機会となるものと確信しております。

また、シンポジウムにおきましては、「看護研究の実装を目指して～病院と大学の共創による取り組み」をテーマに、研究と実践の垣根を越え、研究成果をいかに臨床・現場に実装していくかについて、具体的な取り組みを基に議論を深め、参加者の皆様と知見を共有する場といたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

◆日時：2025年11月1日(土)

◆会場：九州大学馬出キャンパス
(現地開催)

◆事前参加登録期間：

2025年5月1日～10月2日

◆一般演題登録期間：

2025年7月1日～8月22日

事務局

九州大学大学院医学研究院保健学部門
橋口研究室

〒812-8582

福岡県福岡市東区馬出3丁目1-1

Email: kns_jsnr-kyu30@ml.kyushu-u.ac.jp

参加費

	会員	非会員	学生*
事前参加申込み	4,000円	4,500円	無料
当日参加申込み	4,500円	5,000円	(抄録代別)

*社会人学生は除く



大会 WEB サイト

